資料４－２

令和７年度
徳島県農林水産基本計画レポート
（概要版）

新時代へ
躍り出そう

AI Sustainable 藍 Land
TOKUSHIMA

令和８年８月
徳島県農林水産部

戦略Ⅰ「はたらく力」の強化

1　担い手の育成

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
農業法人数（累計）	法人	R5	326	356	335	355
新規就業者数＜農業＞（R6～累計）	人	R5	156	289	400	1,200
新規就業者数＜林業＞（R6～累計）	人	R5	46	76	80	240
新規就業者数＜漁業＞（R6～累計）	人	R5	11	51	60	180

★ＫＰＩ達成に向けた施策

〇未来へつなぐ！とくしま農業デジタル次世代キャリア人材育成事業（9,156千円）
　・農業法人等で実践的な農業技術研修を受けた就農者：１２人
〇新規就農者育成総合対策事業（298,785千円）
　・Ｒ７新規就農者数＜農業＞：１３９人
〇緑の青年就業準備給付金事業（16,646千円）
　・とくしま林業アカデミー研修生：１１人
〇とくしま漁業アカデミー活性化支援事業（6,875千円）
　・漁家子弟の研修生への給付金交付人数：５人

＜具体的な取組内容＞

（１）農業・畜産業における取組

・　経営力の高い次世代人材を育成するため、農業大学校において生産技術のほか、地域農産物を活用した商品開発や販売、ドローン操作等の実習を実施

・　さらなる技術向上のため、施設園芸のスマート技術講座を開設するとともに、かんきつアカデミーで実習を実施

・　法人化や労働力確保に関するセミナーを開催

・　新規就農者への費用面の負担を軽減するため、研修時・就農直後の資金交付に加え、設備導入支援を実施


かんきつアカデミーの実習

（２）林業における取組

・　即戦力となる人材を育成するため、「とくしま林業アカデミー」を開講し、林業に必要な資格の取得や伐採技術の習得、高性能林業機械の操作など、ステップアップ方式による人材育成研修を実施

・　伐採訓練機等を用い、労働安全確保に向けた実践的な研修を実施

・　林業体験林「フォレストキャンパス」において、高校生等の林業体験を実施


とくしま林業アカデミーの実習

（３）水産業における取組

・　即戦力となる浜の担い手を育成するため、「とくしま漁業アカデミー」を開講

・　国の支援対象とならない「漁家子弟」に対し、本県独自制度による支援を実施

・　漁業者や漁協職員等を対象に、「水産資源の持続的な利用」に関する勉強会の開催によるリカレント教育を実施

・　東京と徳島に設置した「とくしま漁業就業マッチングセンター」において、就業マッチングやＷＥＢ就農相談を実施


とくしま漁業アカデミーの実習

戦略Ⅰ「はたらく力」の強化

2　多様な働き手の確保

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
農林水産業に従事する外国人就業者数	人	R5	753	909	870	1,150
「農福連携等」マッチング数（累計）	件	R5	3	10	6	18
農業支援サービス事業体数（累計）	経営体	R5	43	58	48	60

★ＫＰＩ達成に向けた施策

○農山漁村「経営・労働力スマート解決！」展開事業（14,241千円）
　・試行的に農福連携を実施した農業経営体数：２経営体
○とくしま農林水産業外国人材活躍・ステップアップ事業（4,813千円）
　・この事業で「特定技能２号（農業）」の試験に合格した外国人材数：６人
○スマート農業支援サービス拡大事業（46,599千円）
　・育成支援：４事業体

＜具体的な取組内容＞

（１）農林水産業における多様な働き手の育成・確保

・　農業者に対して、「農福連携」の活用方法や取組事例を啓発し、障がい者就労施設とのマッチングや障がい者就労施設への試験的な農作業委託を支援

・　外国人材の在留資格のステップアップを図るとともに、外国人材の持つ能力を最大限発揮させる「外国人材育成・定着モデル」を構築し、得られた知見を展開

・　「徳島マッチボックス」や「バイトアプリ」の活用により、「スキマ時間」を活用したい「働き手」と収穫などで労働力を確保したい生産者のマッチングを推進

・　全国的なゆず果汁の需要過多を契機として、県外大手食品加工会社と美馬市及び生産者団体とのマッチングを図り、令和８年３月に「ゆずの産地振興に関する協定」を締結した。

・　人手が不足する農家と農業支援サービス事業体をマッチングする「とくしまスマート農業推進プラットフォーム」を設立



農福連携による作業受託



徳島マッチボックス



ゆずの産地振興に関する協定締結

戦略Ⅱ　「つくる力」の強化

１　ＤＸによる省力化など技術的ニーズや地域特性に応じた生産の振興

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
スマート技術活用経営体数	経営体	R5	1,533	1,840	1,750	2,350
農地中間管理機構と連携したほ場整備の実施地区数（累計）	地区	R5	5	7	7	9
県産材の生産量	万m3	R5	34.2	R8年8月頃判明 34.0（R6）	51.0	60.0
漁業生産量	t	R4	18,713	R9年3月頃判明 19,100（R6）	20,000	20,000

★ＫＰＩ達成に向けた施策

○とくしま農山漁村未来投資事業（504,625千円）
　・補助金交付件数：９０件
○農地中間管理サポート事業（89,080千円）
　・農地中間管理機構を通じた農地集積面積：９４０ha
○持続可能なデジタル農林水産開発プロジェクト（19,113千円）
　・本県農作物に対応した緑肥による肥料コスト低減技術の開発等：２５件
○経営体育成基盤整備事業（1,045,222千円）
　・農地中間管理機構と連携した農地の整備面積：３４．５ha（７地区）
○花粉削減・グリーン成長推進事業（217,441千円）
　・森林作業道開設：３３，７６１ｍ
　・高性能林業機械の導入：８台
○未来に残す強靭な海づくり事業（6,454千円）
　・アシアカエビ種苗生産技術の導入：１件

＜具体的な取組内容＞

（１）農業・畜産業における取組

・　各産地が抱える課題を明確化し、課題解決に繋がる技術の開発・実証・普及を進める、２０の「とくしま農業振興プロジェクト」を展開

・　スマート技術の普及を加速させるため「とくしまスマート農業推進プラットフォーム」を設立するとともに、スマート機器の導入を支援

・　収益性の高い農業経営を実現するため、芳崎地区（阿南市）や他６地区において、農地の大区画化や汎用化、農業用水のパイプライン化など地域の実情に応じたきめ細やかな生産基盤の整備を実施



「防除ロボット」の実演会

（２）林業における取組

・　航空レーザーデータを用いた地形・森林資源解析を行ったほか、森林情報を共有する「森林クラウドシステム」を構築

・　森林整備の推進や県産材の増産に向け、路網整備や高性能林業機械の導入による効率化を推進

・　花粉が少なく成長が早い「エリートツリー」の植栽による早期の森林再生を推進



エリートツリーのコンテナ苗

（３）水産業における取組

・　資源管理に基づく水産種苗の生産・放流を推進

・　県内の山間部で養殖される川魚の「アメゴ」を「サツキマス（阿波さつき）」へと育成する養殖試験を実施

・　水温、塩分情報のリアルタイム発信システムの機能向上や高度な海況予報を行うシステム開発を推進



「阿波さつき」の養殖試験

戦略Ⅱ 「つくる力」の強化

2 新技術・新品種の開発と実装

行動目標	単位	基準値	実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
新品種･新技術の開発･導入数	件	R5 7	7	7	7
イノベーションＨＵＢによる成果創出数（累計）	件	R5 ―	1	1	3

★ＫＰＩ達成に向けた施策

○とくしま農林水産業イノベーションＨＵＢ推進事業（18,113千円）
・プロジェクト数：９件
○気候変動に打ち克つ農林水産適応技術開発プロジェクト（7,809千円）
・スダチの周年安定供給に向けた新品種や栽培技術の開発等（１１件）

＜具体的な取組内容＞

（１）生産性や品質を高める新技術・新品種の開発と実装

- 「とくしま農林水産業イノベーションHUB」において、媒花昆虫に頼らない「送風受粉機」の開発等、産学官連携による革新的な技術開発や新たなビジネスモデル構築に向けて推進
- 高温耐性・品質・収量性が優れている「にじのきらめき」の栽培適性試験を行い、「奨励品種」に設定し、県下へ普及推進
- 資材価格の高騰や温暖化対策など、生産現場のニーズに対応した新品種の育成や、生産技術の開発・導入を推進



ミニトマト送風受粉機
開発プロジェクト

3 環境への配慮と安全性の確保

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
国際水準GAPの新規認定経営体･団体数	経営体･団体	R5	4	3	5	5
Ｊクレジットの販売量	t	R5	116	3,023	500	2,000
ＪＧＡＰ畜産等認証取得件数（累計）	件	R5	3	7	4	7

★ＫＰＩ達成に向けた施策

○とくしまエシカル農産物ＧＡＰ等ステップアップ支援事業（7,553千円）
・農林水産省ＧＡＰガイドライン準拠以上の認定経営体数：２２経営体
○「徳島県産ＧＡＰ畜産物」ブランド力強化・市場開拓事業（7,084千円）
・ＪＧＡＰ畜産認証取得支援数：３件
○県有林Ｊクレジット取得拡大事業（1,922千円）
・Ｊクレジットの発行に必要なプロジェクト計画書の妥当性確認及び登録

＜具体的な取組内容＞

- 安全安心で持続性の高い農産物の生産拡大を図るため、「とくしま国際水準ＧＡＰ」を創設
- 国際水準ＧＡＰや「ＪＧＡＰ畜産認証」、「水産エコラベル認証」の取得を支援
- 新たに県有林でＪクレジットを創出するとともに、県内外での販売拡大に向けて、地元金融機関等との連携や大手市場での取引を視野に入れて販売を促進

とくしま国際水準GAP認証マーク

戦略Ⅲ 「売る力」の強化

1 農林水産物の魅力発信と販路の拡大

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
農畜水産業産出額	億円	R4	1,114	R9年3月頃判明 1,290（R6）	1,165	1,225
県産農林水産物･食品輸出額	億円	R5	41.5	R8年9月頃判明 49.9（R6）	48.3	106.3
木材丸太の消費量	万m3	R5	58.3	R8年8月頃判明 61.4（R6）	63.5	71.8
水産物出荷･流通施設等の整備（累計）	箇所	R5	17	20	19	23

★ＫＰＩ達成に向けた施策

〇食・文化・観光「オール徳島」販路拡大事業（36,117千円）
・県外での徳島フェア・プロモーション（首都圏：１０回、関西圏：５回、北海道：１回）
〇とくしまバリュークリエイション海外展開事業（59,277千円）
・海外でのプロモーション（香港２回、台湾２回、シンガポール２回、マレーシア１回
タイ３回、EU６回、中東１回、北米３回、ブラジル１回）
〇県産木材競争力強化対策事業（36,600千円）
・木材加工施設の整備：１カ所
〇広域漁港整備事業（2,639,723千円）
・高度衛生管理型荷さばき所の整備：１カ所



北海道での徳島フェア

＜具体的な取組内容＞

（１）「とくしまブランド」の展開

１）国内販売の拡大

・　首都圏や北海道をはじめとする地域での販路開拓を図るため、「公益社団法人徳島県産業国際化支援機構」を核として、「食・観光・文化」一体的なプロモーションを展開



Japan EXPO PARIS 2025

２）選ばれる六次産業化の推進

・　６次産業化商品の販路拡大を支援するため、首都圏の展示商談会に徳島県ブースを出展し、出展事業者に対する専門家の個別相談及び現地指導や、異業種交流会等を実施



AWAギャラリーでのセミナー

３）輸出の拡大

・　フランスに開設したアンテナショップ「GOÉN（ゴエン）」で徳島県コーナーを展開し、県産品のテストマーケティングを実施した他、「Japan EXPO Paris 2025」に出展し、県産品を使用した料理パフォーマンスの実施や県ブースにて県産品を販売

４）成熟した森林資源の利用促進

・　県産材の販路拡大のため、台湾での県産木材ＰＲ拠点「AWAギャラリー」で富裕層向けの木質化セミナーや、展示商談会を開催



椿泊荷さばき所開所式

５）マーケットイン型の「浜づくり」

・　県内水産物の価格形成力を高めるため、集出荷機能を集約化した県内初となる「高度衛生管理型荷さばき施設」を整備

２　地域資源を活用した農山漁村の魅力向上

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
「将来ビジョン」の作成・実践地区数（累計）	地区	R5	38	56	50	74
農山漁村（ふるさと）協働パートナーの登録数（累計）	団体	R5	85	97	91	103
ジビエ加工施設での処理頭数	頭	R5	2,065	2,499	2,000	2,200 **→2,500**
新規狩猟免許取得者数（累計）	人	R5	154	503	450	1,050

★ＫＰＩ達成に向けた施策

○「阿波地美栄」魅力発信・食育推進事業（4,786千円）
　・「阿波地美栄」取扱店舗：計６５店舗（令和７年度新規認定：４店舗）
○「森林（もり）を守るハンター育成・確保事業」（5,129千円）
　・東部地域、西部地域各1回（計2回）講座を実施：１０名受講
○未来へ「つなぐ！」農山漁村（ふるさと）元気づくり事業（16,402千円）
　・「将来ビジョン」の作成・実践地区数：７地区
　・協働パートナー参加人数：３９３人
○「とくしま農林漁家民宿」魅力向上事業（2,334千円）
　・とくしま農林漁家民宿開設数：６６軒
○ 林道の魅力度アップ！とくしま林道活用事業（6,000千円）
　・林道活用イベント参加者数：３７３人

＜具体的な取組内容＞

（１）地域の保全と関係人口の創出

１）鳥獣被害対策とジビエの利活用

・　シカやイノシシ等の生息密度の適正化を図るため、市町村が実施する「有害鳥獣捕獲」や県が実施する「指定管理鳥獣対策事業」等により、年間を通して捕獲圧を強化

・　新人狩猟者や次世代の狩猟者を確保するため、関係企業・団体等と連携し、捕獲技術の習得支援や狩猟の魅力を発信

・　「阿波地美栄（ジビエ）」の消費拡大を図るため、学校関係者を対象とした「調理セミナー」の開催し、学校給食への活用を推進



ハンティングスクール



協働活動の実施

２）地域で育む農山漁村づくり

・　「住民自ら」がコミュニティ維持・運営の自立化に取り組む「将来ビジョン」の作成や、同ビジョン実現に向けた農村型地域運営組織「農村ＲＭＯ」等の設立及びそのスタートアップを支援

・　都市と農山漁村の交流を促進させるため、地域住民と「農山漁村（ふるさと）協働パートナー」の協働活動や、食・景観、地域のお祭りなどの地域資源のＰＲを実施

・　農林漁家民宿への旅行需要を呼び込むため、経営者のスキルアップや受入れ体制の強化を図る研修を実施

・　牟岐漁港を活用した「釣～リズムフェスティバル」や、「剣山スーパー林道」を活かしたツーリングイベント等を開催



農泊スキルアップセミナー



剣山スーパー林道ミーティング

戦略Ⅳ　「農山漁村の防災力」の強化

1　安全・安心と食料供給能力の確保に向けた生産基盤の強靭化

行動目標	単位	基準値		実績値（R7）	目標値（R7）	目標値（R11）
ため池等の耐震化（累計）	施設	R5	15	19	17	21
地籍調査事業の進捗率	%	R5	44	46	46	50
老朽化対策に着手した農業水利施設数（累計）	施設	R5	124	132	132	148
緊急輸送道路を補完する農林道の整備延長（累計）	km	R5	33	36	36	40

★ＫＰＩ達成に向けた施策

○老朽ため池等整備事業（1,143,375千円）
　・事業実施地区数：２３地区
○地籍調査事業（1,182,604千円）
　・調査実施面積：３４．０１㎢
○農業水利施設保全対策事業（1,955,865千円）
　・整備施設数：４８施設
○森林基盤整備事業（2,388,014千円）
　・林道開設延長：３４路線、４．８km
○広域営農団地農道整備事業（336,038千円）
　・農道整備延長：７２５m


農業用ため池の整備（阿南市）


堤防の護岸補強による高潮対策

＜具体的な取組内容＞

（１）自然災害への備え

・　「防災重点農業用ため池」の劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価の結果を踏まえた堤体や取水施設等の整備の他、農業用として利用の見込みがないため池の廃止を推進

・　災害から迅速な復旧・復興を図るため、
災害発生リスクが高い「重点エリア」や公共事業の円滑化に繋がる地域の地籍調査を促進

・　令和７年９月に公表された津波浸水想定を反映した「農業版ＢＣＰ」の改訂を行うとともに、豪雨災害に備えた実践力を向上させる「ため池緊急放流訓練」を実施


農業用用排水路の補修

（２）生産施設の長寿命化・生産性向上

・　老朽化した農業水利施設の長寿命化を図るため、機能診断結果に基づく適時適切な補修・補強を実施

・　木材・農産物等の効率的な輸送による生産性の向上や、農村地域の生活環境の改善に加え、災害時の集落の孤立化防止を図るため、緊急輸送道路を補完する農林道整備を推進


広域農道整備（つるぎ町）